

海外メンタルヘルスの現場からⅡ

(43) 海外邦人医療基金（JOMF）の情報交換会

シンガポール日本人会クリニック

医師 日暮 真由美

10月31日、JOMFの海外医療情報交換会に今年も参加させていただいた。毎年1回開催され、今年で20回目とのことである。この会でお会いする企業の皆さんから、私がかつて診させて頂いていた患者さんの日本に帰国した後の状況を教えていただくことがある。これは大変貴重なことであり、私にとってはこの会に出席させていただく中で最も勉強になることの一つである。

普通、本帰国した自分の患者さんがその後になくなったのか、元気になったのかなどを長期的に知ることはなかなか難しい。紹介先の日本のクリニックの先生が返信をくださることは多いが、大抵は帰国後まもなくの近況であるし、ご本人自身やそのご家族が帰国後の近況を私まで知らせてくれるケースもたまにはあるものの、全体数からすると多くはない。そんな中で、JOMFの情報交換会では本人の帰国に際して関わってくださった方たちなどからその後の本人の様子を教えていただくことがあり、本当にありがたく思う。それは私にとっては非常に重要な情報であり、その情報をもって、私のその患者さんに対する診療の本当の区切りをつける気持ちになる。

患者さんが帰国したあと元気で今も働いているということを知るのには本当にうれしいことである。中には、再び駐在員として海外に出ているという人もいたりして、逆に元気をもらえたという気持ちになることもある。一方、なかなか調子が戻らない人や、会社をやめてしまった人のことなども知ることがある。うまくいっていない場合ほど学ぶべきところは多く、自分の診療にも反省点がなかったかどうか自問自答する。そして、今はうまくいっていないかもしれないその患者さんたちが、少しでもこの先の人生をいい方向に進めていけることを心から願う。

毎年の情報交換会で私が発信していることはいつもたいした内容のものではないが、この会で駐在員の健康を預かる企業の皆さんとお会いして私が得ているものはとても大きい。

このような貴重な機会に関わってくださる皆様に心より感謝申し上げます。